

岩手でエタノール増産 都内VB、新蒸留装置を導入

2017/6/24付 | 日本経済新聞 地域経済

岩手県奥州市でコメからエタノールを製造しているベンチャー企業のファームステーション（東京・港）は年内に、大型の蒸留装置を導入する。需要増に伴い設備を増強するもので、エタノール生産量は2～3倍になる見込み。酒井里奈社長は「事業を安定させ、他の地域でも展開したい」としている。

同社は独自の発酵技術でコメから高純度のエタノールを製造。化粧品の原料としてメーカーに供給しているほか、せっけんや消臭スプレーなどの自社商品を都内の雑貨店やインターネットなどで販売している。無農薬米でつくっていることから評価が高く、原料、商品とも需要に追いつかなくなっていた。岩手銀行傘下の投資会社いわぎん事業創造キャピタルが株式を取得する形で出資した。出資額は非公表。

同社は2009年の設立で、奥州市に製造工場がある。地域の米農家や養鶏農家と提携しており、エタノールを製造する際に出る残さをニワトリの飼料にする循環型事業を進めている。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.

